

令和 5 年度

「運営に関する計画・自己評価」  
(最終評価)

大阪市立十三中学校

令和 6 年 3 月

## 校訓

純真明朗・敬愛互譲・歓喜力行

### めざすこども像

- ・自ら課題を見つけ、考え、判断して主体的に行動することを育てる
- ・心身を鍛え、あきらめずにやり抜くことを育てる
- ・お互いの違いを理解し、尊重しあうことを育てる

### めざす教職員像

- ・範を示す
- ・学びの姿勢を止めない
- ・めざす像の実現に向け、力を合わせる

### めざす学校像

さまざまな機関と連携し、組織力ですべての子どもの能力を最大限に伸ばす

## 学校教育目標

- ・基礎学力の定着を図り、ルールを守って自主的に行動できる集団を育成する
- ・人権尊重を基盤とした、一人ひとりを大切にする教育を充実する
- ・「生きる力」を育む教育活動を推進する

## 教育方針

生徒の共通理解を深めるため、教職員の研修活動を活発にし、日々の教育活動の場でその実践化を図り、教職員相互の主体性と独自性を尊重する。

- 1 きめこまかに生徒理解を通じて、能力・適性を把握し、生徒一人一人の可能性を最大限に開発する。
- 2 進路指導にあたっては、結果よりも困難を開拓していく努力の過程を尊重するなかで自己決定をさせる。
- 3 相互の開きあつた人間関係・人間理解を通じて、共に変容するなかから規律ある集団の育成を図る
- 4 生命の畏敬と心身の健全な成長をはかるとともに、自発的・能動的な相互協力によって環境の美化と安全に努める態度を養う。

## 1 学校運営の中期目標 (令和 4 年度～令和 7 年度)

### 現状と課題

- ・全体的に落ち着いた環境で教育活動が行うことができている。しかし、不登校生徒をはじめ、困り感を抱えた生徒も少なくない。
- ・全国学テ、チャレンジテストの結果から、更なる学力向上の手立てを打つ必要がある。
- ・あらゆる教育環境を見直し、組織的にすべての教育活動を進める必要がある。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85% 以上にする。  
[令和 5 年度 75.3%]
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。  
[令和 4 年度 8.51%] [令和 5 年度 9.11%]

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 全校平均を 35% 以上にする。  
[令和 4 年度 27.9%] [令和 5 年度 44.4%]
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より 1.00 ポイント向上させる。

**国語 :** 令和 5 年度 1 年生 61.1 点 (対府比 +0.3 点)

令和 4 年度 1 年生 57.4 点 (対府比 -1.2 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年生 59.5 点 (対府比 -0.6 点)

令和 4 年度 2 年生 59.5 点 (対府比 -0.1 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年生 62.3 点 (対府比 +0.2 点)

**数学 :** 令和 5 年度 1 年生 55.8 点 (対府比 +1.8 点)

令和 4 年度 1 年生 49.0 点 (対府比 -6.0 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年生 43.4 点 (対府比 -5.6 点)

令和 4 年度 2 年生 43.4 点 (対府比 -5.6 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年生 50.2 点 (対府比 -2.0 点)

**英語 :**

- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル (英検 3 級) 相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 40% 以上にする。

[令和 4 年度 53.0%] [令和 5 年度 52.4%]

- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。

[令和 4 年度 47.4%] [令和 5 年度 50.65%]

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・ I C T の活用に関する目標

デジタル教材を活用した学習を 5 教科において毎月 1 回以上実施する。

[令和 4 年度 22.2% 令和 5 年度 100%]

・教職員の働き方改革に関する目標

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1・2を満たす教員の割合の基準1を40%以上。基準2を60%以上にする。

[令和4年度 基準1 29.3% 基準2 51.2%]

[令和5年度 基準1 47.6% 基準2 9.5%]

基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下。

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、をすべて満たす。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。  
〔令和 5 年度 75.3%〕
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。  
〔令和 4 年度 8.51%〕〔令和 5 年度 9.11%〕

#### 学校園の年度目標

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、肯定的な「だいたいあてはまる」と回答する生徒の割合を 100%にする。  
〔令和 4 年度 93.1%〕〔令和 5 年度 96.9%〕
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。  
〔令和 4 年度 8.51%〕〔令和 5 年度 9.11%〕

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。  
〔令和 4 年度 27.9%〕〔令和 5 年度 44.4%〕
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も向上させる。

国語： 令和 5 年度 1 年生 61.1 点 (対府比 +0.3 点)

令和 4 年度 1 年生 57.4 点 (対府比 -1.2 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年生 59.5 点 (対府比 -0.6 点)

令和 4 年度 2 年生 59.5 点 (対府比 -0.1 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年生 62.3 点 (対府比 +0.2 点)

数学： 令和 5 年度 1 年生 55.8 点 (対府比 +1.8 点)

令和 4 年度 1 年生 49.0 点 (対府比 -6.0 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年生 43.4 点 (対府比 -5.6 点)

令和 4 年度 2 年生 43.4 点 (対府比 -5.6 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年生 50.2 点 (対府比 -2.0 点)

- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル (英検 3 級) 相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を向上させる。〔令和 4 年度 53.0%〕〔令和 5 年度 52.4%〕
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を向上させる。

〔令和 4 年度 47.4%〕〔令和 5 年度 50.65%〕

#### 学校園の年度目標

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 全校平均を 30%以上にする。  
〔令和 5 年度 44.4%〕

- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より 0.25 ポイント向上させる。

国語：令和 4 年度 1 年生(対府比 -1.2 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年生(対府比 -0.6 点)

令和 4 年度 2 年生(対府比 -0.1 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年生(対府比 +0.2 点)

数学：令和 4 年度 1 年生(対府比 -6.0 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年生(対府比 -5.6 点)

令和 4 年度 2 年生(対府比 -5.6 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年生(対府比 -2.0 点)

- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 40% 以上にする。

[令和 4 年度 53.0%] [令和 5 年度 52.4%]

- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。

[令和 5 年度 50.65%]

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標

- ・ I C T の活用に関する目標

デジタル教材を活用した学習を 5 教科において実施する。 [令和 5 年度 100%]

- ・教職員の働き方改革に関する目標

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 ・ 2 を満たす教員の割合を上げる。 [令和 5 年度 基準 1 47.6% 基準 2 9.5%]

#### 学校園の年度目標

- ・ I C T の活用に関する目標

デジタル教材を活用した学習を 5 教科において毎月 1 回以上実施する。

[令和 5 年度 100%]

- ・教職員の働き方改革に関する目標

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 ・ 2 を満たす教員の割合の基準 1 を 33% 以上。基準 2 を 53% 以下にする。

[令和 5 年度 基準 1 47.6% 基準 2 9.5%]

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### ・学校園の運営の全体を通じて、どのような成果があったか。

- いじめに関するとらえ方として、「どんな理由があってもいけないと思う」について肯定的な回答は 96.9%と向上が見られた。しかし、3.1%の否定的な回答が実情を物語っている。学校生活や放課後、休日のあらゆる場面の多様な価値観のぶつかり合いにおいて、不快な感情の表出とどう向き合い、どう対処していくか、今年から開講した道徳の「こころアップタイム」をとおして、具体的なコミュニケーションスキルを学んでいる。

令和 6 年度は、生活指導中心で期間を限定して実施している現行の SWPBS（学校規模ポジティブ行動支援）を日常的に授業の中でも実践できるようにしていく。

- チャレンジテストは経年比較において上昇している。特に 1 年生は、5 教科中 4 教科が府（市）平均を超えた。朝学習で計算力の強化、授業内での継続した英単語テストの実施、漢字検定に向けた受験対策等が功を奏している。
- 部活動指導員の配置により、教員の超過勤務が改善されている。教員の超過勤務の多くの理由は部活動指導であることが分かった。令和 6 年度はさらに 3 つの部活動に指導員を採用する。課題としては、教頭の超過勤務であるが、これについては、校務分掌を明確にし、各担当者が職責を全うできるように組織の見直しを図る。

#### ・項目や取組の重点の置き方は適切だったか。

年度目標

- 『「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』に対して、肯定的な「だいたいあてはまる」と回答する生徒の割合を 100%にする。』は、前年度より割合を向上させることを目標にする。
- 「デジタル教材を活用した学習を 5 教科において毎月 1 回以上実施する。」は、時代の流れの中で、急速にデジタル化が進んだため、目標を変える必要がある。

#### ・目標を達成できなかった項目は、どのような課題があったか。

不登校生徒の学びの保障や居場所づくりについて、通級の開設により、保健室登校の生徒の中から、心理的に過敏であるとか、起立性調節障害等の生徒を通級に入級するよう導き、一人 1 台端末を活用した学びを支援した。しかし、学習障がいではない、様々な理由による不登校の生徒の個別対応には手が届かなかった。マンパワーでは解決できなかったため、組織的な対応が必要である。

#### ・成果を伸ばし課題を改善するために、次年度はどのように取り組むのか。

- 不登校支援として、令和 6 年度に向けて、「すべての生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられる環境を確保する」ためにエンパワーメントルーム（仮称）を開設する。

(様式2)

## 大阪市立十三中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 〔令和5年度 75.3%〕</li> <li>年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 〔令和4年度 8.51%〕〔令和5年度 9.11%〕</li> <li>年度末の校内調査において、前年度不登校の生徒の改善の割合を増加させる。 〔令和4年度 31.8%〕</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校にいくのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70.0%以上にする。 〔令和5年度 90.3%〕</li> </ul> <p><b>【全国学力・学習状況調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を95.0%以上にする。 〔令和5年度 91.9%〕</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</b></p> <p><b>1－2 不登校への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心の不調を予防するプログラムである「こころあっぷタイム（前12時間）」を導入し、子どものメンタルヘルスの安定化を目指し、不登校に繋がる可能性のある心の不調の予防に努める。</li> <li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、大学等の他の専門家との連携を深め、適宜教職員が指導助言を受けることができる環境整備に努める。</li> </ul> <p><b>指標：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「こころあっぷタイム」を1年生は4時間、2年生は6時間、3年生は12時間実施する。〔令和5年度1年生：4時間、2年生：6時間、3年生：12時間〕</li> </ul> <p><b>取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</b></p> <p><b>1－3 問題行動への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模ポジティブ行動支援の実行度を高め、生徒の望ましい行動を引き出す教職員の関りの充実と安心・安全な学校環境の整備に努める。</li> <li>行動目標（ポジティブ行動マトリクス）を作成し、生徒から引き出したい望ましい行動を具体化させ、教職員の共通理解を図る。</li> <li>子どもの望ましい行動を引き出すための教職員から生徒への賞賛機会の充実を狙った「友情満開キャンペーン」を実施する。</li> </ul>	A

<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの強さと困難さアンケートを年に2回実施し、困難性総合の下位尺度を学校の平均値が先行研究の平均値（12.5%）よりも下回る。</li> </ul> <p style="background-color: yellow;">〔校内調査〕〔令和4年度 11.1%〕〔令和6年アンケート集計中〕</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>2-3 人権を尊重する教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>性の多様性の学習をすべての学年で実施し、LGBTQ+についての理解を深め、生徒が在籍している生徒を自然な形で受け止めることができ、自身の性的思考性や性自認について教員に話せる環境を促進する。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>性の多様性の学習後の振り返りにおいて、各クラスにおいて学習に対する理解や認識を持てたという肯定的な感想を持つ生徒の割合が90.0%以上にする。</li> </ul> <p style="background-color: yellow;">〔令和4年度 93.8%〕〔令和5年度は感想文として実施〕</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>2-1 道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>答えが一つでない道徳的な課題を一人一人が自分のこととしてとらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させる。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目を全国平均にする。</li> </ul> <p style="background-color: yellow;">（全国学力・学習状況調査）〔令和4年度：全国 88.4% 本校 90.3%〕</p> <p style="background-color: yellow;">〔令和5年度：全国 88.3% 本校 81.9%〕</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>2-4 インクルーシブ教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援が提供できるように、通常学級の担当者とくすのき学級の担当者が、個別の支援計画や、指導計画などをもとに、連携をとり学びの確保をする。</li> </ul>	<b>A</b>
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級生徒の実態把握のため、年に4回以上特別支援推進委員会を開催する。各学年においては、日々、担任の先生を中心に連携をとっていく。</li> </ul> <p style="background-color: yellow;">〔令和4年度 5回、令和5年度 4回〕</p>	

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</p>	
<p>1-2 不登校への対応</p> <p>こころあっぷタイムは、各学年予定通り進んでいる。今後、各種個別・小集団指導の場面での活用の広がりに期待したいと考える。また、SC・SSW をはじめ関係諸機関との連携を密に行っている。また、不登校生徒の居場所の確保として、教育支援センター、フリースクール、放課後デイサービスと連携をとり、出席認定を積極的に進めている。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1-3 問題行動への対応</p> <p>学校規模ポジティブ行動支援の充実により、生徒の問題行動の発生件数は減少傾向にある。行動目標を具体化し、教職員が生徒の望ましい行動を強化するように努めてきた。そして、生徒の望ましい行動が増加したことで相対的に問題行動件数が減少したと考えられる。また、生徒が作成した学校スローガンから、「一人ひとりをたいせつにする学校の文化と風土」が醸成されてきていることが確認できている。</p>	

#### **取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

##### **2-1 道徳教育の推進**

ペアワーク・グループワークを導入することにより、生徒たちの多様な意見が出てきて、授業に活気が出てきた。道徳授業での「対話」の充実が、さらに重要になってくると考える。それにより、生徒たちが、人の痛みや有り難みを知り、人を思う想像力が深まつてくると考える。

#### **取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

##### **2-4 インクルーシブ教育の推進**

日ごろから担任や学年の教員間で連携を取りながら特別支援学級生徒が、授業や行事に参加することができている。また、情報交換を中心に2回の特別支援推進委員会を行い、3回目は、職員研修を計画中である。研修によって特別支援学級や、通級の生徒を含めたみんなが過ごしやすい環境を教職員で考えていくことが必要である。

#### **次年度への改善点**

#### **取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

##### **2-3 人権を尊重する教育の推進**

外部講師を招いて、デートDVや性の多様性についての学びを深め、その後の感想文では生徒から多様な性への肯定的な認識がうかがえた。人権教育については、多様な生き方を理解するために、これまで学年が中心となって取り組んできたが、今後は様々な人権を扱った学習を3年間とおして計画的に見通しを立てて実施する必要がある。

#### **取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

##### **2-4 インクルーシブ教育の推進**

教職員間で連携を取りながら、特別支援学級や通級の生徒が授業や行事に参加することができていた。またユニバーサルデザインについて、教職員研修を行い、学校全体として、生徒全員が過ごしやすい環境とは何かを考えるきっかけになった。次年度はそういったことを教職員で実践していくように働きかけていきたいと考える。

また特別支援学級での取り組みを実践報告として教職員に伝えていきたい。

## (様式 2)

## 大阪市立十三中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>全市共通目標</b> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 全校平均を 30%以上にする。 〔令和 4 年度 1 年生 30.5% 2 年生 29.2% 3 年生 24.1%〕 ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より 0.25 ポイント向上させる。 〔令和 4 年度国語 3 年生+0.05 数学+3.1〕 〔令和 4 年度国語 2 年生+0.03 数学+0.6〕 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル（英検 3 級相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55%以上にする。〔令和 4 年度 53.0%〕 ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。 〔令和 4 年度 7.4%〕	
<b>学校の年度目標</b> <b>【1、学力について】</b> ○国語における習熟度別授業やチームティーチングの授業において個別最適化学習に取り組み、語彙力を向上させ、チャレンジテストの「書くこと」の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 〔令和 5 年度 1 年 12.9 点(対府比+0.5 点) 令和 4 年度 1 年 4.6 点(対府比-0.1 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年 11.8 点(対府比-0.8 点) 令和 4 年度 2 年 11.1 点(対府比+0) ⇒ 令和 5 年度 3 年 16.3 点(対府比-0.3 点)〕	B
○数学における習熟度別授業やチームティーチングの授業において個別最適化学習に取り組み、チャレンジテストの「数と式」の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 〔令和 5 年度 1 年 28.3 点(対府比+0.5 点) 令和 4 年度 1 年 24.4 点(対府比-3.1 点) ⇒ 令和 5 年度 2 年 17.1 点(対府比-1.5 点) 令和 4 年度 2 年 14.1 点(対府比-3.2 点) ⇒ 令和 5 年度 3 年 14.8 点(対府比-0.9 点)〕	
○英語における習熟度別授業やチームティーチングの授業において個別最適化学習に取り組み、チャレンジテストの「読むこと」の平均点の対府比を、同一母集団	

において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

令和 5 年度 1 年 28.5 点(対府比+1.1 点)

令和 4 年度 1 年 23.3 点(対府比-3.1 点)⇒令和 5 年度 2 年 17.5 点(対府比-1.4 点)

令和 4 年度 2 年 19.5 点(対府比-1.5 点)⇒令和 5 年度 3 年 18.3 点(対府比-0.3 点)

## 【2、体力について】

○運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合が 50%以上にする。

【令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査】〔令和 4 年度 47.35%〕

【令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査】〔令和 5 年度 50.65%〕

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 4-1 言語活動・理数教育の充実 言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。	B
指標：1 年生で「リーディングスキルテスト」を実施し、結果について分析し、教員間で課題を共有する。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 生徒が「主体的」に参画する「対話的」な学習活動による「深い学び」の実現や、「思考力・判断力・表現力の育成をめざした教科を横断した学習活動など、教員が互いに交流や見学を通して授業力の向上に努める。	B
指標：年に 3 回教員の相互授業参観を実施する。 〔令和 4 年度 2 回実施〕〔令和 5 年度 3 回実施〕	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 4-3 英語教育の強化 ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語 4 技能の総合的な育成に取り組む。	B
指標：・英検 3 級相当以上の英語力を有する 3 年生の割合を 55% にする。 〔令和 5 年度 52.4%〕	
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 4-4 全市共通テスト等の実施と分析・活用 ・3 年生実施の「全国学力・学習状況調査」及び全学年実施の「中学生チャレンジテスト」、1 年生実施の「大阪市版チャレンジテスト plus」の分析をまとめ、具体的な教育活動の改善等を実行する。	B
指標： ・「全国学力・学習状況調査」の結果、「中学生チャレンジテスト」大阪市版チャレンジテスト plus の結果の分析を教科会で行い職員連絡会で周知し、結果をまとめて保護者に周知する。	
取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 5-1 体力・運動能力向上のための取り組みの推進 ・外部の専門家を講師に招き、体力の向上や集団育成を図り、実践していく。	A

- ・部活動と連携を図り、体力、運動能力向上の取り組みを実践し、基礎体力を増進する機会を充実させる。

**指標：【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】**

- ・「新体力テスト」の結果を分析し、数値目標を掲げ、男女ともに全国平均を上回るようにする。

[令和5年度総合評価対全国比2年生男子-0.3、女子-0.5]

- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等の調査」について、体力合計点の結果を前年度より向上する。

[令和5年度2年生男子49.7 (-0.3)、女子49.5 (-0.5)]

大阪市男子平均は上回っており、男子+0.2の結果だった

- ・「運動やスポーツをすることが好きですか」の肯定的な回答を前年度より向上させ、「1週間の総運動時間」が60分未満の割合を前年度より減少させる。

[肯定的回答：令和5年度男子88.9%女子77.3%]

- ・外部の専門家による指導を取り入れた授業を年に1回以上実施する。

[令和5年度2年生1回]

- ・部活動と連携を図り、入部率・継続率をデータ管理し、年度末に分析結果を全職員で共有し、HPに掲載する。 [令和4年度入部率73%、令和5年度85%]

**取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

**5-2 健康教育・食育の推進**

親校と連携して食育指導を行い、SDGSの視点を取り入れて健康と食の大切さについての意識を高める。

A

**指標：親校と連携し、年に1回食育週間を設け、食育講話を実施する。**

[令和5年度実施]

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

**取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

**4-1 言語活動・理数教育の充実取組内容**

リーディングスキルテストは実施できたが、まだまだ課題の多い結果となった。文の構造を正しく把握するなどの基本的な読解力は身に付いているように思える。しかし、物語文は好きだが、論説文は苦手などのように、得意な分野があるようだ。様々なジャンルの文章を読み込む必要がある。「思考力」「判断力」「表現力」の育成は今後の課題と考えているので、今回の結果についての分析、教員間での課題の共有をこれからしていく予定である。

**取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

**4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進**

校内相互授業参観は1学期3年生、2学期2年生が実施した。2学期の校内相互授業参観時に校区小中学校道徳研修を兼ねて実施した。また、学力向上のために毎月2年生数学科の研究授業、かつ若手教員が一人1回以上教科指導および道徳の授業研究を実施し、教育センターの担当者から指導を受けている。

**取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

**4-3 英語教育の強化**

・GTECの受検結果、およそ52.4%の生徒が英検3級相当の英語力を有することが分かった。しかし、今回受検したGTECのテストは最も簡単なレベルのものであることから実際に受検した場合の合格率は低いと予測される。

**取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

### 5－1 体力・運動能力向上のための取り組みの推進

- ・「新体力テスト」「全国体力・運動能力、運動習慣等の調査」は結果待ちである。
- ・外部の専門家による指導を取り入れた授業は、今年度2月に実施。
- ・部活動と連携している。今年度の入部率は85%（1年91%、2年84%、3年80%）

#### 取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

### 5－2 健康教育・食育の推進

親校と連携して食育通信を月一回発行している。食育週間は3学期に計画予定である。

#### 次年度への改善点

#### 取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

### 4－3 英語教育の強化

- ・教科書の内容理解や学習すべき文法を教えることに追われ、スピーキングテストや自由英作文などといった応用問題に取り組むことが少なかった。次年度はC-NETとともにライティングやスピーキング能力を伸ばすことができるよう、見通しを立てたカリキュラムを組み立てたい。

#### 取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

### 4－4 全市共通テスト等の実施と分析・活用

今後は、分析が具体的な教育活動へ結びつけるために学力向上委員会と各教科主任が連携し、横断的・縦断的に学力の向上を推進する。

(様式 2)

## 大阪市立十三中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった		B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況				
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>全市共通目標(中学校)</b> 【ICT の活用に関する目標を設定する】 ・デジタル教材を活用した学習を 5 教科において毎月 1 回以上実施する。 〔令和 4 年度 22.2%〕〔令和 5 年度 100%〕 【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 ・ 2 を満たす教員の割合の基準 1 を 33% 以上。基準 2 を 53% 以上にする。 〔令和 4 年度基準 1、29.3% 基準 2、51.2%〕 〔令和 5 年度基準 1、47.6% 基準 2、9.5%〕	B				
<b>学校の年度目標</b> ○一人 1 台端末を持ち帰ることを習慣づけ、端末の持参率を 95 % 以上にする。 〔令和 4 年度未達成〕〔令和 5 年度未達成〕 ○大学や区役所との連携・協働による、現場課題の解決につながる研修の企画を年に 2 回以上実施し、効果を検証する。 〔令和 4 年度人権研修 2 回、小中中堅研修（大学連携）1 回、メンター研修 1 回〕 〔令和 5 年度人権研修 2 回、小中中堅研修（大学連携）1 回、メンター研修 1 回 ICT 研修 2 回、キャリア教育 2 回〕					
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況				
<b>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DL デジタルトランスフォーメーションの推進】</b> <b>6-2 データ等の根拠に基づく施策の推進</b> ・「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力調査」、「心の天気」や「いじめアンケート」等の全市共通の調査について、各担当者が結果を分析し、授業力の改善や生徒の個別最適な学びを推進する。	B				
指標： 「全国学力・学習状況調査」、「チャレンジテスト」、「チャレンジテスト plus」の実施後、各担当者が結果を分析し、職員連絡会で結果を全教職員に周知し、進捗状況のデータ管理の割合を 100% にする。 〔令和 4 年度データ管理 100%〕〔令和 5 年度データ管理 100%〕					
<b>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> <b>7-1 働き方改革の推進</b> ・ゆとりの日を月に 1 回設定し、年次有給休暇の取得を促す。					
指標： ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 50% 以上にする。 〔令和 5 年度 37.8%〕					

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標の「一人1台端末を持ち帰ることを習慣づけ、端末の持参率を95%以上にする。」は、目標として実情に合った目標に変更する必要がある。なぜなら、家庭によって、生徒が端末利用の管理ができないため持ち帰らせないでほしいなどの苦情があり、実際に生徒がyoutubeの動画を視聴できる設定になっていたこともあり、情報活用に対する理解を得にくい現状があった。

### 取組内容①【基本的な方向6 教育DLデジタルトランスフォーメーションの推進】

#### 6-2 データ等の根拠に基づく施策の推進

「心の天気」は、全校集会での呼びかけをはじめ、担任からの利用促進を強化して入力が増えるように働きかけている。

「いじめアンケート」について進捗管理が不十分だったため、学年によって未実施があった。生徒が端末で回答するため、技術面では情報教育担当が担うが、実施の進捗管理は生徒指導部が担う等、役割分担を明確にする必要がある。

### 次年度への改善点

### 取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

#### 7-1 働き方改革の推進

「ゆとりの日」の超過勤務はほとんどないが、働き方改革においては、部活動の休息日を学校で揃えるなど、さらなる工夫が必要である。

部活動指導員の採用が促進され、教員の超過勤務は改善されつつある。今後は、部活動指導員の業務の進捗管理等をどうするかという課題への対応が必要となる。